

おおたはら たか あき
太田原 高 昭 (年齢 76 歳) (昭和 14 年 9 月 18 日生)

- (略歴) 昭和 38 年 北海道大学農学部卒業
昭和 43 年 北海道大学大学院農学研究科単位取得
昭和 43 年 北星学園大学経済学部講師
昭和 46 年 北海道大学助手 (農学部)
昭和 51 年 学位取得 (農学博士)
昭和 52 年 北海道大学助教授 (農学部)
平成 2 年 北海道大学教授 (農学部)
平成 11 年 北海道大学農学部長、大学院農学研究科長
平成 15 年 北海道大学退職 (名誉教授)
平成 15 年 北海学園大学教授
平成 20 年 北海学園大学退職

研究業績の題名

北海道農業の振興に果たす農協の役割に関する研究

業績紹介

太田原高昭氏は、農業経済学をベースとする農協の史的研究に基づき、今後の農協の展開方向を一貫して提起してきた日本の中心的な農協研究者の一人であり、日本協同組合学会長、日本農業経済学会長を歴任している。氏の農協論の特徴は、総合農協の組織特性を重視し、営農指導と販売事業による産地形成を農協の中心的な事業活動と位置づけ、それを通して地域農業振興に果たす農協の役割、課題を明確にするものである。

また、日本の農協研究の蓄積、成果を活用して、中国、台湾、韓国の農協、および農産物出荷を中心とする各種農民組織の調査・研究にも研究領域を拡大してきた。日本の総合農協のメリットを、東アジア諸国における地域農業の発展、農産物の出荷・販売組織の育成に活かすものであり、このような日本と東アジア諸国の農協に関する国際比較研究の業績も評価される。

地域農業の振興に果たす農協の役割を重視する氏の努力は、北海道農業の発展に大きく寄与してきたことを、とくに指摘したい。太田原氏は、北海道の「食の安全・安心委員会」の委員長として全国に先がけて北海道の「食の安全・安心」条例の制定に尽力したうえに、北海道の各種農業団体や多数の先進的な農業経営者などとの交流、研究会を通して、北海道農業の発展に貢献してきた。

その一つの現れが、2013 年の『新北海道農業発達史』の刊行である。『新北海道農業発達史』は、耕種、畜産などのほぼ全ての農業分野を網羅する、北海道農業の半世紀余の歴史を綴る貴重な研究成果である。太田原氏は、『新北海道農業発達史』研究会の座長として、その編集に主導的な役割を果たし、稲作経営の弛まぬ歩みを自らも執筆している。氏の努力がなければ、後生への遺産でもある『新北海道農業発達史』の編集、刊行は難しかったであろう。

以上のように、農協に関する多面的な研究とともに、北海道農業の発展に尽力されてきた研究業績は高く評価される。

(小澤健二選考委員記)

過去に受けた主な賞

平成5年 J A研究賞 (J A全中)